

発行日 2009年4月20日(隔月20日発行) 通巻273号 1982年8月16日 第三種郵便物認可

日本国際ボランティアセンター 会報誌
トライアル・アンド・エラー(試行錯誤)

Trial & Error

No.273
May-June 2009

特集 中東に関わり続ける視座

『JVC中東フォーラム』という試み

JVC Japan International Volunteer Center

中東に関わり 続ける視座

『JVC中東フォーラム』という試み



イラク戦争開戦から6年 トークセッション
『それでも希望はある!』

日時：2009年3月21日（土）13:30～16:30
会場：明治大学 リバティータワー 1123教室

■イラク、パレスチナ、アフガニスタンに生まれた人間として、壇上から日本人の参加者に話しかける3名のパネリストたち。（左奥はJVC谷山）

「テロとの戦い」。9・11を機に、米国をはじめとする国際社会は、この「テロ」という対象の明確でないものとの「戦い」に突っ込んでいった。その一環としてアフガニスタンやイラクへと軍事侵攻した結果、現地に多大な破壊と混乱を招いたことは周知の事実だ。

イラク、アフガニスタン、パレスチナで活動するJVCは、中東地域の安定に対して日本に住む私たちに何ができるのかを考えるため、この一年『JVC中東フォーラム』として一連のイベントを開催してきた。その一環として、イラク戦争開始から六年を経た今年三月二十一日、「それでも希望はある！」というタイトルのトークセッションを開催した。

「『それでも希望はある！』。これは一種の反語ですね。状況は厳しいという意味を込めたテーマ設定なわけです。しかし、そこに住む人々は希望を持って生きている。だからこそ、私たちは支援活動ができると思っています」とJVC代表の谷山は話す。今回、日本で暮らすイラク、アフガニスタン、パレスチナ出身者を招いて、当事者としての意見をお聞きした。

武力でなく賢い政治を



モハメッジ・シャキル

（医師、留学生、NGO運営委員）
七六年バグダッド生まれ。大阪大学大学院医学系研究科博士課程に在籍中。著書に『イラクの現実を見て!』。

米国は、「対テロ戦争」の一環で、イラクを攻撃しました。

しかし大量破壊兵器は見つからず、フセイン前大統領とアルカイダとの関係性も証明されません。この戦争には正当性がないと考えます。

ブッシュ大統領（当時）は、イラクに民主主義をもたらすと宣言していました。しかし、この戦争によって多くの一般市民が亡くなりました。つまり、米国は民主主義（Democracy）のロードではなく、人権の侵害（Deprivation）や、離散（Displacement）そして死

です。数百ものビルが破壊され、そのほとんどが再建されていません。再建にはイラク政府が責任をもつてあたるべきですが、それをモニターするための国際的な協力が必要です。国際社会には、イラクの人々の努力をサポートしてほしいのです。

また、治安改善は優先すべき事項ですが、警察や兵士の数を増やすことで治安が改善されるとは私は思いません。敵対する勢力との積極的な対話による融和が行なわれないかぎり、治安の安定は訪れないと思います。レジスタンスの人々は、占領者である米国がイラクに居続ける限り、抵抗を続けるわけです。私たちほどんな外国軍であつてもイラクに駐留することを認めたくありません。それによつて、周辺国への脅威となることを我々は認めません。国際社会は、イラクの人々に代わるような形で治安部隊を出すことはしなくていいのです。私たちは、治安は自分たちの責任であると理解しています。世界の紛争解決のために、賢い政治家が必要であつて、武力ではありません。国際社会には、今後米国が他の国を侵略するのを止めてほしいです。



■トーケセッション当日の会場。
百名近い方が参加されました。

from AFGHANISTAN

アーミン・レシャード
 （介護老人施設副施設長）
 六六年カブール生まれ。カ
 ブール国立小児病院、パキス
 タン難民キャンプにて医師
 として活動。〇三年に来日。

アフガニスタンは砂漠ばかり
 であると言われますが、かつて
 のアフガニスタンは緑豊かで、
 美しい四季がありました。ところが七九年にソ連軍が侵攻して
 きて、沢山の不発弾、地雷が残されました。その後も内戦や米
 軍による空爆などがあります。戦争は人を傷つけるだけではなく、動物も犠牲となり、環境も変えてしまうのです。

米国は「対テロ戦争」としてアフガニスタンを空爆しましたが、一人のテロリストを殺すために、多くの村を空爆しました。人々はこれを「反アフガニスタン戦争」だと思っています。

アフガニスタン人は三十年間

アーミン・レシャード
 六六年カブール生まれ。カ
 ブール国立小児病院、パキス
 タン難民キャンプにて医師
 として活動。〇三年に来日。

戦争はなにもかも 変えてしまった



「アルカイダ」も冷戦時代に米国が作ったグループです。つまり周辺国から武器が来て、使い方も教わって、それで人々は内戦をしてきた。だから周辺国との対話が必要なのです。

いくら米軍を増派しても民間人の犠牲は増えると思います。増派すれば治安が良くなるというのは間違いだと思います。一番の方法は政治対話だと思います。アフガニスタンには元々「ジルガ」という伝統的な合意形成の仕組みがあり、それを活用すべきです。自分の問題は自分で解決するべきです。軍隊の派遣は被害しかもたらさない。

アフガニスタンでは日本はすく評判がいいのですが、もし軍隊の派遣（注・国内への自衛隊派遣）をすれば日本のイメージはかなり悪くなります。日本の意図はわかりませんが、アフガニスタン人としては、軍隊の派遣にしか見えない。北朝鮮の人と日本人は同じか話になるかもしれない。人間としては一緒なのです。

アラブ社会の中のイラク人、パレスチナ人、イラン人、スンニ、シーア：聞きたくない。みんな人間なのです。私はアラブ人、貴方たちは日本人。なぜ区別しなければいけないのか。それは差別です。私たちの間の違いは言葉だけで、みな人間です。

中東から来た人間には、北朝鮮の人と韓国人と日本人は同じにしか見えない。北朝鮮の人がか頭が固くても、なんとか話になるかもしれない。人間に対しては一緒に声をかけてくれる人はいっぱいいる。でも、パレスチナ人が殺されたとき、日本のメディアはなにも言わない。それがつらい。日本にはパレスチナを知らない人がまだたくさんいます。パレスチナに行けない人でも、日本の中できることがあります。聞くこと、書くことも大事だけれど、アクションが一番大事なん

なによりもアクション！



三十五年間、心から笑ったことはない。パレスチナの今の状況を考えれば、笑うことはできない。パレスチナには自由がない。どこへいっても壁。空しか見えない。でも私たちに羽は無い。飛びことはできないんです。もの自由のために。

一九七九年に来日し、〇一年に埼玉県川口市にレストラン『Green Grass』を開店。オーナーシェフを務める。

from PALESTINE

アラブ社会の中のイラク人、パレスチナ人、イラン人、スンニ、シーア：聞きたくない。みんな人間なのです。私はアラブ人、貴方たちは日本人。なぜ区別しなければいけないのか。それは差別です。私たちの間の違いは言葉だけで、みな人間です。

日本の中でも私たちに声をかけてくれる人はいっぱいいる。でも、パレスチナ人が殺されたとき、日本のメディアはなにも言わない。それがつらい。日本にはパレスチナを知らない人がまだたくさんいます。パレスチナに行けない人でも、日本の中できることがあります。聞くこと、書くことも大事だけれど、アクションが一番大事なん

『JVC 中東フォーラム』とは何か

この3月20日で、米軍がイラクに侵攻して6年を迎えた。イラク駐留多国籍軍は撤収を始めるというが、米軍は逆にアフガニスタンに増派される。そしてパレスチナ・ガザ自治区へのイスラエルの侵攻と、「対テロ戦争」が引き起こした紛争と混迷は、いまもなお続いている。こうした状況を背景に、JVCは『JVC 中東フォーラム』と銘打つてこの1年、さまざまな角度から問題を追ってきた。この『JVC 中東フォーラム』の意味を改めて谷山博史代表理事に聞いた。(編集部)



これまでに開催した関連イベント

日付	イベント
2008/3/20	シンポジウム『イラク戦争から5年』(本誌no.266参照)
2008/9/11	シンポジウム『9.11から7年～それでも対テロ戦争を続けるのか～』
2008/10/1	勉強会『曲がり角のイラク「復興」支援』
2008/10/17	勉強会『2008年、いまイラクで起きていること』
2008/11/29	シンポジウム『アフガニスタンに国際社会はどう関わるべきか』(本誌no.271参照)
2008/12/7	シンポジウム『イラク戦争は何をもたらしたのか～自衛隊の撤退を機に考える～』
2008/12/11	報告会『パレスチナ・レポート』
2009/3/21	『それでも希望はある！』(今回)

■ 現場の視点に立って

JVCはパレスチナ、アフガニスタン、イラクに長く関わっているが、個々の地域ではなく、「中東」というくくりで問題を考えてみようと思ったのに、いくつかの理由がある。

まず第一として、「対テロ戦争」とは何だったのかを現場から明らかにし、この地域の共通の課題を明らかにしたいという狙いがあった。

第二は、その上で日本として何ができるか、何をすべきかを考えたかった。日本の中東政策

は従来、欧米とは違うスタンスをもつっていた。独自の外交資源ともいえるもので、このフォーラムではそれを最大限いかす方法を考えていこうと思った。

第三は、経済的な側面についてである。アフガニスタンにしろイラクにしろ、米国は「対テロ戦争」という旗を掲げて介入し、政府を壊し、国土を破壊し、多くの人びとを殺し、傷つけた。そして次には復興計画を押し付けた。それは市場主義と民営化という枠組みによってつくられたもので、多くの人びとがそこから切り捨てられ、貧富の格差が生まれ、深まっていく恐れがある。「対テロ戦争」のもうひとつの側面であるこの問題を明らかにしたいと思った。

第四は、上からの平和構築や融和路線がどこまで有効かを検証し、草の根レベルの動きの大切さを明らかにしたいと考えた。小さな動きだが、JVCの関わる三ヵ国にはそれがある。その小さな芽を育て、上からの動きに対する対案をつくりたいと考えてきた。

こうした課題を設定して、私たちは現地で、暮らしの現場で生きる人々と対話してきた。その声を、そこで浮かび上がった中東の人々の共通の思い、願い

を日本の人びとに、そして日本の政府に届けたい。

■ 浮かび上がる共通の思い

今回のフォーラムは、日本在住の方々のお話とそれをめぐる討論という形で進んだ。そのなかで改めて私たちがこのフォーラムに託した課題の正しさを感じた。日頃、現場に関わるNGOで活動するものとして、われにいるつもりになっていた

いくつもの事柄に関して、「目からうろこ」の知見を得た。

例えば、日本のメディアは「いきなり軍がいなくなつたら治安はどうなる」などと書くが、イラクのモハマッドさんは「外国軍などいらない。それが治安を悪くしている」と言いつつも、「米軍の増派は逆効果だ。必要なのは対話だ」と語り、パレスチナのイヤツドさんは「米国とイスラエルはハマスとファタハが対立しなければ困るのだ」と指摘した。いずれも、私たち日本人が「複雑な背景があるのだろうから」と歯切れの悪くなりがちな現状の本質をあまりと突いていた。こうした共通の視点こそが、私たちの活動の基盤となるべきものだと改めて思う。



テーマ：

001 食料は誰のものか

JVC 事務局次長

壽賀一仁 著



テーマ：

002 イラク

東京外国语大学教授
酒井啓子 著



テーマ：

003 パレスチナ・ガザ

JVC エルサレム事務所 前現地代表
小林和香子 著



JVCブックレットの刊行を開始します。

5年で10冊を目指して、まずは6月に3冊をお届けします。



日本国際ボランティアセンター（JVC）は、来年で活動30周年を迎えます。これまでの支援活動を通して激動の時代を草の根の人々の視点から見つめてきました。そして世界各地それぞれの現場にある課題が2重3重の入り組んだ構造のなかで私たち日本人の生活と直結していることを常に感じてきました。JVCスタッフ一人ひとりが現場の課題や人々とどのように出会い、悩み、自らの問題にひきつけて行動してきたのかを記録に残したい、そしてそこから21世紀の混迷を切り開くヒントが見えてくることを信じて、このたび『JVCブックレットシリーズ』を刊行することになりました。（代表理事 谷山博史）

谷山 博史 (代表 / イラク事業担当)

万歩計を買った。この勢いで全国行脚して、日本各地とJVCの現場をつなげよう。

磯田 厚子 (副代表)

個性と自発性を最大限尊重するJVCでも、組織的経験の蓄積・継承に力を入れたい。

清水 俊弘 (事務局長)

石窯パンにきれいな割れ目を入れられるよう、手首と肘の"引き"を安定させる。

壽賀 一仁 (事務局次長)

小さいながらも地元で畑が借りられたので、毎日の畑通いと自給率1%を目指す!

島村 昌浩 (カンボジア事業担当)

厄年ですので自重を心がけつつも、公私共に新たなチャレンジをしたいです。

川合 千穂 (ラオス事業担当)

いよいよ大台に乗った09年。シワを増やす、を目指せ「スマイル美人」。

下田 寛典 (タイ事業担当)

得意のインターネットでレシピを検索。家庭料理のレパートリーを増やしたい!

渡辺 直子 (南アフリカ事業担当)

ズールー語を勉強して、南アフリカの人たちと彼らの言葉で会話できるようになる!

長谷部 貴俊 (アフガニスタン事業担当 / 現地代表)

アフガニスタンの人々が安心できる日が早く来るよう、すこしでも役に立ちたい。

谷山 由子 (アフガニスタン事業担当補佐)

"アフガン行けず太り"の解消のため、水泳と麦・大豆トラストの農作業に精を出す。

西 愛子 (保健アドバイザー)

初挑戦の我が菜園を見た隣人が一言、「野菜がかわいそう」。試行錯誤を重ねます。

藤屋 リカ (パレスチナ事業担当)

中性脂肪を中東脂肪と言い間違えた私。油 & 塩分控えめパレスチナ料理の開発を。



後列(5名)左から:長谷部、壽賀、細野、高橋、島村
中列(6名)左から:広瀬、清水、石川、藤屋、渡辺、谷山由
前列(7名)左から:佐伯、荻野、川合、谷山博、稻見、武繁、寺西
左棒上から:磯田、西、下田

佐伯 美苗 (スーダン事業担当)

不惑を過ぎ、新たな挑戦がより大切に思えます。もっと欲ばかりになりたいですね。

寺西 澄子 (コリア事業担当 / 会員担当)

陽気が良くなったら事務所で週末パーティ!企画から参加してください方大募集。

高橋 清貴 (調査研究・政策提言担当)

昨年は20kgのダイエットに成功。その余勢を駆って、今年はフルマラソンに挑戦。

武繁 政昭 (経理担当)

新しく100人の人と出会う。そして、人見知りを解消する。

稻見 由美子 (経理担当)

どんなときも、ニコニコ、笑顔で、淡々と!!知足常楽。

広瀬 哲子 (広報担当)

JVCマラソン部(毎週金曜活動中?)の皇居ランを続けます!走り後の銭湯が極楽。

細野 純也 (会報誌レイアウト / 総務担当)

昨年の「ブログ5000PV」達成→これを3倍に。で、今年こそツール・ド・ちばに出場!

荻野 洋子 (カレンダー事務局)

クク、ダンバ…西アフリカの村のジンベを叩き、ジンベに踊って、スピリットに浴す。

石川 朋子 (コンサート事務局)

丁寧に料理をする夫を見習い、月に1回はレシピを見ながら新しい料理をする。

東京事務所 (21名)

JVC STAFF 2009

今年度の抱負を
聞きました

事はすべて達成できるように努力する。

イン・コック・エン (資料・情報センター(TRC)司書)

幸せの青い鳥が舞い込んできますように。

ドゥオング・リンダ (会計 / 総務)

克己復礼。(『論語』より:己に克(勝)ち、礼儀作法に従う)

ウン・ナラット (会計 / 総務)

日本語能力試験3級は合格したので、次は1級に合格したい。

マオ・ブントゥーン (運転手 / 総務補佐)

今年よりもいい仕事をしたい。働き始めてすぐに事故を起こさないようにしたい。

ノブ・ティム (技術学校アドバイザー)

技術学校の増収と自立、それと自分の健康の維持を目標に頑張りたい。

ダン・ソン (警備 / TRC補佐)

息子や娘が何事もなく平和で過ごせるようにサポートしていきたい。

チン・ブン・ヒエン (警備 / TRC補佐)

警備の仕事で失敗(=泥棒に入られること)しないように努力したい。

サ・スィネン (清掃担当)

事務所を清潔に保ち、活動しやすい環境を整える。JVCの家財を大切にする。

山崎 勝 (現地代表)

花を愛でる心をもち、家のベランダの花が枯れ、たい肥とならないようする。

サム・ネアリー (CLEANシニア・トレーナー)

息子が今年高校を卒業するので、卒業試験に合格するよう母としてサポートしたい。

坂本 貴則 (CLEANプロジェクト担当)

カンボジア全州訪問(未訪問は全部で11州)。特にPreah Vihear州に行きたい。

ムット・ロット (CLEANフィールド・スタッフ)

3000ドルの貯金を貯めて、いつでも結婚できるようにしたい。

コウン・コル (CLEANフィールド・スタッフ)

新しいバイクを買うために貯金をする!

ナイ・シネン (CLEANフィールド・スタッフ)

JVCに入ったばかりなので、仕事をまず覚えることが今年の目標。

パオ・リット (CLEAN運転手 / 総務補佐)

安全運転を心がける。家を新しくするために借金をしたので、早く返済したい。

サーイ・ボラ (CLEAN環境教育担当)

学而時習之。(『論語』より:ものを教わり、あとから復習・練習する)

ホン・キムシア (CLEAN環境教育担当補佐)

家族の健康と幸せを願いつつ、できる仕



左から:ブントゥーン、ボラ、山崎、ブン・ヒエン、坂本、
ティム、コルム、エン、ロット、ナラット、キムシア
から:シネン、スイネン、ネアリー、1名おいてリンダ



サビルッラー・メムラワル (治安 / 総務)

親族のために始めた和平教育を充実させ、話し合いによる和平の実現を目指したい。

モハンマド・シャブル・サフィ

(医師：地域保健医療調整員)

スタッフ全員が一致協力して積極的に活動するようなチームにしたい。

ハミドゥッラー・マルフ (教育・コミュニティ活動)

今年こそ戦争が終わり、人々に国際社会からの支援の手が届きますように。

ファヒーム・アハマド (経理)

和平への道は武力だけでないことを理解し、和平が穏やかに実現することを願う。

アブドゥル・ワハーブ (医師：地域保健医療調整員)

アフガニスタン人の一人一人が目を覚まし、真の自立に向けて努力することを願う。

サイード・サファール・アガ (総務)

アフガニスタン人の一人一人が目を覚まし、真の自立に向けて努力することを願う。

イザトウッラー (守衛)

和平の実現を切に願い、あわせて子どもたちの教育と健康が改善されることを。

モハンマド・ナシーム (医師：診療所長)

すべての人々、特にアフガン人が健康で安全に生きられるよう願っています。

ディダ (女性医師：診療所外来担当)

すべてのアフガン人にとって平穏な年となるよう願い、私は医師としての技術向上を。

ルトウフル・アハド (診療所検査技師)

すべての人、特にアフガン人が健康で経済的に安定し良い教育が受けられますよう。

モハンマド・アミン (診療所薬局担当)

紛争が終わり穏やかな年となるよう願い、医療スタッフは専門知識で社会貢献を。

モハンマド・ラヒム (診療所看護師)

英語とコンピュータを勉強すること、そして子どもには良い教育を受けさせること。

ママナ (助産師：母子保健外来担当)

穏やかな年でありますよう。自分は医療知識・技術を磨くことに励みたい。

ファティマ (地域保健促進員)

アフガニスタンに平和が訪れ、すべての人々が穏やかに暮らせるよう願います。

ハビーブ・ラフマーン (診療所守衛)

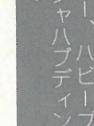
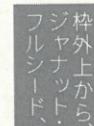
昇給し、雇用契約が続くよう願っています。

フルシード (ワクチン接種担当)

予防接種の普及に努め、より効果的にできるよう頑張ります。

モハンマド・ナシル (医師：簡易診療所長)

JVC がアフガンの人々のために無料の医療



ラオス事務所 (9名)

平野 将人 (現地代表)

自分で料理したものを食べるようになります。新年から始めた腕立て伏せを継続したい。

グレン・ハント (森林担当)

自分の奥さんとともに、今年中に大学院に論文を提出したい。

スワニー・マントンディ (VT事務所アドミ担当)

沢山あります。家の建築の完成、ビジネスや会計、英語の勉強、息子の学校！

クンタノン・バンタノウォン (アドミ担当)

タバコをやめたい。そして、子どもたちのために土地を買えるお金を貯める。

ブンシン・サナホーン (森林コーディネーター)

体調管理し、血糖値を普通レベルまで下げます。現在95キロの体重を80-85キロに！

ペッダワン・シバセウ (森林担当)

英語がうまくなり、恋人ともうまく行きましょう。そして、宝くじを当て…

フンパン・センチャントン (農業コーディネーター)

9ヵ月間アジア学院で研修。様々な人々と農業技術やリーダーシップについて学ぶ。

サンガ・ウンヴィライポン (農業担当)

環境への配慮で友人たちの手本になりました。肉よりも野菜を多く摂るよう心がける。

ヴィライサック・ブータボン (運転手)

家の建設を完成し、家族に快適な暮らしを。子どもをコンピュータ学校に送る。

アフガニスタン事務所 (30名)

サービスを継続・拡充することを願います。

ワグマ (コミュニティ助産師：簡易診療所母子保健外来担当)

世界に平和が訪れ、イスラム世界における女性の地位が向上することを願います。

ミル・ジャマル (簡易診療所薬局担当)

アフガンをはじめ世界のすべての人々が仲間となり、武力抗争を止めるよう願います。

シャハブディン (簡易診療所守衛)

地域保健員から簡易診療所の守衛に。

JVC が活動地域を拡大するよう願います。

アシル・モハンマド (簡易診療所守衛)

新しく始まった簡易診療所が村人のために規模拡大して診療所となるよう願います。

ジャナット・グル (診療所守衛)

JVC で働き続け任務に最善をつくす。初の子どもが生まれる前の昇給を願います。

カンボジア事務所 (17名)



後列(12名)
リツツ
前列(4名)
枠内:ゾン

アフガニスタン事務所 (30名、 続き)

デラワール (守衛)

和平が実現し、私の子どもたちが良い教育を受けられるような環境を望みます。

アブドゥル・ラジク (守衛)

子どもたちのために教育と医療制度が整うことを願う。自分は英語を勉強したい。

アガ・グル・パチャ (運転手兼守衛)

アフガンにイスラム政権が確立し、子どもたちが良い教育を受けられますよう。

シャー・モハンマド (運転手)

世界、とりわけアフガンの和平実現と子どもたちが良い教育を受けられますよう。

ザマヌラー・メムラワル (運転手)

国外で生活しているアフガン人が皆帰国して国の復興に参加するよう願っています。

ナビ・ジャン (運転手)

すべての人にとって良い年であるよう願い、私自身はJVCのため安全運転を続けます。

ファザル・ハーカ (ワクチン接種員 / 写真なし)

すべての人々の健康を願い、JVCの仕事が続けられるよう願っています。

バスミナ (事務所清掃員 / 写真なし)

我が7人の子どもたちを飢えさせないよう頑張ります。すべての子どもたちに教育を。



エルサレム事務所

福田 直美 (現地調整員)



挑戦しては挫折してきた楽器・ダンス・語学。どれか1つは復活させたい。

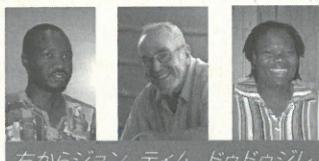
イラク事業 (ヨルダン駐在)

原 文次郎 (現地調整員)



隣国からの遠隔操作が続くが、イラク国内につながるための友人を増やす。

南アフリカ 事務所 (3名)



ジョン・ンズィラ (HIVエイズ事業 パーマカルチャー専門家)

自分の家の蜂が今年もおいしいハチミツをつくってくれますように…。

ティム・ウイグリー (環境保全型農業 自然農業専門家)

建設中の家を完成させて自給生活を送り、近代農業の弊害について発信する。

ドゥドゥジレ・ンカビンデ (プロジェクトコーディネーター)

40歳になる前の今年、結婚したい。相手は日本人と南ア人、どちらがいいかな?

スーダン事務所 / 整備工場 (23名)

仕事も忙しいし…。

ロディオング・ジョー (メカニック)

子どもを学校に入れて、家を建てかえたい。

ボスコ・ヤカニ (メカニック)

トヨタ車の修理とメンテナンスをもっと学びたい。

ヨゼフ・シンダニ (メカニック)

自分の整備工場が開けるようにジェネレーターなど機材を買いたい。

ルバジョ・マイク (警備員)

整備の研修に参加したい。家を建てて、それにコンピューターの講座も受けたい。

アレックス・アムレ (電装)

家を建てかえたい。

ジェフリー・ンガンガ (電装)

家族が暮らせる土地を買いたい。

オクエラ・フランシス (調達補助・在庫管理)

調達や在庫管理がもっとできるようになりたい。今は借家なので、家を建てたい。

サミュエル・オリン (板金・塗装・溶接)

家を建てて、子どもを学校に入れる。

アンドレア・ワニ (警備員)

学校の授業料を貯めるという難問を解決。

フォエベ・ドゥドゥ (総務)

コンピューターを買って、もっと使えるようになる。家族のために家を買いたい。

ヴィターレ・オケチ (溶接兼涉外)

海外からのパート調達をもっと安く確実にできるようになる。

セビット・ネルソン (メカニック)

スタッフの技術・作業能率が上がってほしい。

モーゼス・マンザ (メカニック)

子どもを学校に入れて、家を建てる。

マリッシュ・チャールズ (メカニック)

もっと整備の勉強をして、家を建てたい。



今井高樹 (現地代表)

スーダンに来ればや2年、今年こそ地元の伝統楽器を弾けるようになりたい。

サイモン・シキ (工場長)

工場収入で工具や機材を買い替える。一部の研修生を日本での研修に参加させたい。

グウェイン・スコーパス (会計)

子どもを一人小学校に入れて、もう一人は大学に進ませたい。

ポール・ラス (溶接)

子どもたちを学校に入れて、家を建て替える。

アミコ・イラ (授業担当指導員)

自分用の工具がほしい。それから、少なくとも2部屋ある家を家族に建てる。

アニヤマ・ベンソン (実習担当指導員)

燃料噴射ポンプの修理や技術進歩に合わせた研修が必要。新しい機材もほしい。

ポニー・ペティ (メカニック)

もっと技術を身につけたい。それから燃料噴射ポンプの整備ができるようになりたい。

チャールズ・ジスマル (メカニック)

バイクを買いたい。それともっと勉強したい。

モーゼス・アミン (警備員)

学校に入りなおして勉強しなおしたい。でも、



後列(12名)左から:ジョゼフ、アミコ、サイモン、アンドレア・ワニ、ヴィターレ、サミュエル、ポール、フォエベ、マリッシュ、スコーパス、モーゼス・アミン、ロディオング
前列(7名):ジスマル、ポニー、今井、ジェフリー、アムレ、1名おいてセビット・ネルソン、ボスコ
枠外上から:オケラ、ルバジョ、モーゼス、アニヤマ

1年間ご苦労様でした。そして、これからもよろしく！

春は、出会いと別れの季節——。JVC 東京事務所でも、1年間活動してくれた 2008 年度インターンが "卒業" していきました。その中からお二人に感想を聞きました。（編集部）



学生時代に NGO に 関わること

（広報インターーン）

平塚 祥子



広報インターーンとして JVC に一年間関わらせてもらいました。貴重な経験と多くの知識や情報を得ることができました。特に広報においていたため、NGO組織の中での広報の役割と外部へ伝えることの大切さや難しさを知ることができました。中でも私が感じたことは、NGOは一人ひとりの支えによって成り立っているということです。会員の皆様をはじめ、ボランティアさんやイベントに足を運んでくれる方、また、そこから広がる人と人の輪によって支えられているのだと感じました。私自身一人の学生としてインターンという形で JVC に関わり、始めは自分自身への学びをたくさん与えてもらいました。大学で国際協力について学んでいましたが、それができるとても楽しかったです。関わっていく中で、インターン



■イベントで使う広報用素材を作る。

広報インターーンとして JVC に一年間関わらせてもらいました。貴重な経験と多くの知識や情報を得ることができました。特に広報においていたため、NGO組織の中での広報の役割と外部へ伝えることの大切さや難しさを知ることができました。中でも私が感じたことは、NGOは一人ひとりの支え

によって成り立っているということです。会員の皆様をはじめ、ボランティアさんやイベントに足を運んでくれる方、また、そこから広がる人と人の輪によって支えられているのだと感じました。私自身一人の学生としてインターンという形で JVC に関わり、始めは自分自身への学びをたくさん与えてもらいました。大学で国際協力について学んでいましたが、それができるとても楽しかったです。関わっていく中で、インターン

して JVC の役に立てているのだろうかと思い、受け身な姿勢でなく積極的に仕事に取り組むよう常に心がけてきました。それにより、広報だけでなく各事業担当の方々とも交流を持ち現地の最新情報などを聞くことができました。

学生最後の年に NGO の事務所で関わりを持つことができたことは、私にとってとても良い経験となりました。今後私は会社で働き、まずは社会での学びに専念しますが、この一年間の経験を忘れず次に活かしていきたいと思いま

す。特に大切だと感じた人とのつながりを大切につながり続けていきたいと思います。これからは、一人の会員として JVC の皆様を応援していきます。ありがとうございます。

十と六年の官仕えを捨てて、生まれ変わらぬ馴染みの体。コツはあくまで当たつて砕ける——。下手な元ネタ改変はこれくらいにして、何の気の迷いか国際協力の仕事をしようと思い立ち、大学に入り直して農業・農村開発を勉強するかたわら、少しでも現場の匂いを嗅ぎたくて JVC の扉を叩きました。

遙けく望むは中央アジアの乾いた大地、残念ながら物騒なご時世のゆえ現地を訪なうことはかないませんでしたが、毎週の「アフガニスタン・ウォッチ（ウェブサイトに掲載」や昨年十一月のシンポジウムを通じて一年間見つめ続けたアフガニスタンは、すでに他の



■国会議員との勉強会の場にも同席した。

人々に喜び添い、ともに 喜び悩み続ける JVC

（アフガニスタン事業インターーン）

塩見 正裕



遙けく望むは中央アジアの乾いた大地、残念ながら物騒なご時世のゆえ現地を訪なうことはかないませんでしたが、毎週の「アフガニスタン・ウォッチ（ウェブサイトに掲載」や昨年十一月のシンポジウムを通じて一年間見つめ続けたアフガニスタンは、すでに他の

とりあえず当面は立場が変わることになり、今後もずっと何かしらの形で縁があり続けるよ

うな気がしています。そして NGO 初体験の身なれど違和感をほとんど覚えずに済んだのは、存外に民間企業経験者の多い JVC の懐の深さゆえか、大企業とはいえ個人芸の多い事業開発稼業が長かつた当方の悪ずれゆえか…。いやいややはり、スタッフの皆さんの人徳のしからしむるところでありましょう。オープンに激論を交わしながらもアットホームな雰囲気の中で、事前の想像や期待をいい意味で上回る一年でした。これからもずっと元気よく、人々に寄り添い一緒に喜び悩み続ける JVC であってほしいと思いつつ、今後もこの業界で何かとついたり離れたり、縁が切れることはないと思ってますので、皆様どうぞよろしくお付き合いください。

スタッフのひとりごと

バラディ(地元)蜂の逆襲

エルサレム事務所 現地調整員 福田 直美

天気のよい週末は、村に遊びに行くのが楽しみの一つ。牛の乳しぶり、ミツバチの世話、畑の灌漑用パイプの設置なんかをして、労働力になつてもいいのにご飯をごちそうになって帰ってきます。

パレスチナでは地域の特性を活かした農業が行なわれています。養蜂もその一つ。先日、ミツバチの世話をしに知人の家に行ってきました。何度も来ているので、「この箱は君のものだよ」と言われて、ちょっと慣れてきた気分。“防護服”の頭の部分を外して、巣箱から離れて休憩

している時のこと。「ぶ～～ん」という音がしても、余裕で構える“慣れた”私。しかし次の瞬間、左目のすぐ下に猛烈な痛みを感じました。「いった――――っ！！」

すぐに蜂の針を除いたのですが、翌日には目が開かないくらいに顔の半分が腫れあがっていました。下まぶたなので“逆お岩さん”状態。病院で診てもらうと、医師は私のパンパンに腫れた顔を見てぎょっとしていましたが、話を聞いて笑いをこらえられない様子。看護師まで見に来る騒ぎに…。その後3日間は腫れ



イラスト/かじの 倫子

が引かず、皆から「よりによってそんな場所…どうして刺されたの？」と聞かれることになつてしましました。

さて、その理由。今となつては正直に話していますが、実は巣箱から離れていた時、私は箱から持ち出したフレームに詰まつたハチミツのセルを指で壊して食べていたのです。刺せば命を落とす蜂の命がけの逆襲。バラディ(地元パレスチナ産)の蜂の気質を、身をもつて知つた出来事でした。

CD『SUNRISE 7』

FUNKIST／ポニーキャニオン／57分



ぼくがバンドの紹介をすることが自体珍しいことだが、本気で好きなのだから仕方ない。FUNKISTのリーダーの染谷西郷くんは南ア人の母と日本人の父とのハーフ。彼は日本で育つたのだが、周囲とちょっとでも違えば排斥する日本社会。彼は排斥され、引きこもり気味の青年となつた。しかも彼は十九歳の頃に肝臓病で死ぬ予定だった。

しかし東洋医学で奇跡的に完治する。周囲に連れ、取り残された気持ちでいる彼を、両親は南アの実家に送る。そこでも元気のない彼を、祖母は観光列車のつもりで「バナナトレイン」に乗せた。その列車はバナナ畑を越えると、アパルトヘイト時代の黒人ゲットーであったホーリーランドに入る。列車を貧しい

子供たちが追いかけ、列車に乗つた白人観光客たちがその子たちにお菓子を投げてめぐむのだ。彼はしばらく何が起つたのか分からず、理解したとたんに自分も買ってしまつたお菓子を握つたまま泣き崩れてしまう。

初めて『バナナトレイン』という曲を聴いたとき、ぼくはそのエピソードを知つていたから感情を揺さぶられることはなつた。しかし揺さぶられ、あふれる涙を隠すのにとっても困惑した。音楽とはこれほど感動させられるものなのか。その彼らとコラボして、トーク＆ライブを新宿LOFTでやつた。ぼくがアパルトヘイトと彼のエピソードを説明して『バナナトレイン』に入り、貧困と資源問題を説明してから『ニともたちのそら』という曲にガザの映像を乗せた。このイベントはこれまで経験したことのない表現の場になつた。西郷くんは終わつた後そつとぼくに話してくれた。自分は遺書のつもりで曲を書いていたのだと。だからかもしない。彼らの音楽は心の中に眠つていた本心を奮い起こすのだ。

JVCは、現在10の国／地域で活動しています。

□ カンボジア

■生態系に配慮した農業による生計改善(CLEAN)

07年からシェムリアップ県東部の35村で活動を行なっている。乾季には、主に栄養菜園研修やたい肥づくり研修を行なっている。カンボジアでは牛ふんをそのまま肥料として利用することが多いが、発酵させることでどのように良い堆肥になるのかを説明した。

■持続的農業と農村開発(SARD)

94年からカンダール県50村で活動してきた。1月の活動終了評価に基づき、活動終了報告書を作成中。環境教育については、4月からシェムリアップ県で実施の予定。

■資料・情報センター(TRC)

持続的農業、農村開発、環境に関する資料を94年から提供。これまでコミュニティー資料センターの支援を行なってきたが、4月からはJVCの直接的な支援がなくても必要な本や資料を収集できるよう、プノンペン市内のNGOや図書館などを訪問し、担当者との関係づくりを行なった。

■技術学校

85年に政府と合意し、プノンペンで職業訓練校と付設整備工場を開始した。1月より3ヵ月間の予定で日本人アドバイザーが滞在し、主に営業改善のための努力に取り組んでいる。(以上山崎)

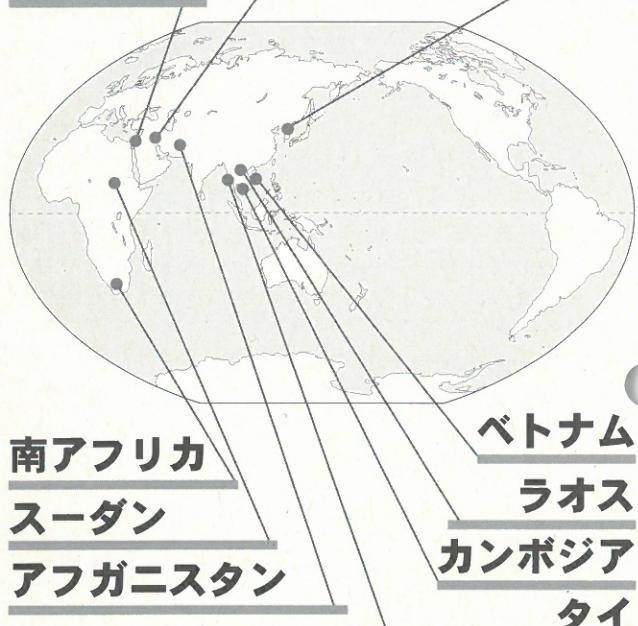


■「簡単にできるたい肥づくりに挑戦したい！」

イラク

パレスチナ

コリア



南アフリカ

スーダン

アフガニスタン

ベトナム

ラオス

カンボジア

タイ

□ タイ

■農村派遣研修

国際協力や自然環境保護に関心のある人をタイの農村に派遣し、「開発」や「NGOの役割」について村人と一緒に考え・学ぶ研修プログラム。稻作の有機栽培の普及を行なうNGOに1ヵ月間帯同した。2月には南タイで在タイビルマ人支援のNGOを訪問。保障が得られにくい外国人労働者への緊急支援や教育活動におけるNGOの役割に気づいてもらえたようだ。

■スタディツアー

3月中旬に東北タイを訪問するスタディツアーを実施。コンケン県の地場の市場を見学し、運営委員会メンバーと交流した。参加者から「タイは途上国だと思っていた。でも市場に参加する村人は皆幸せそうだった。お金が一番ではない価値観を持っている。その意味では日本の方が途上国なのかもしれない」という声が聞かれた。(以上下田)



■農作業体験で固い土と格闘するスタディツアーの参加者。

□ ラオス



■村人が3年がかりで掘ったため池の魚でBBQ。

■森林保全／農業・生活改善事業(カムアン県)

9月に正式な活動は終了しており、フォローアップを実施している。プロジェクト終了までに井戸の完成していなかった2村について建設の状況確認を行なっている。また、幼苗一本植え(SRI)を行なっている1村に、灌漑施設が未完成のまま放置されている問題があったが、政府の予算が結局下りていないことがわかった。引き続き、井戸と合わせてフォローしていく。

■森林保全／農業・生活改善事業(サワナケート県)

1月にラオス行政から正式な事業の調印が行なわれ、事業開始となった。アサポン郡のケンメオ村では、07年度の調査の際に行なったフードカレンダーなどの振り返りを行ない、問題に対する解決策としてどんな活動をJVCと共にていきたいか話し合った。村人とともに村を歩き、支援の可能性を探った。2月には県や郡行政力センターパート全6名が決定し、プロジェクトについて説明する会議が行なわれた。また、ビエンチャンにて全国から幼苗一本植に取り組む関係団体が集まり、全国会議が行なわれ、JVCの経験を発表した。(以上平野)

イラク

■国内避難民支援

現地の団体と協力し、イラク国内で特に困難な状況に置かれている避難民家族を対象に食料支援を行なっている。09年1月末に地方議会選挙が行なわれた直後に当たる2月3日～7日にかけて、地元の団体やモスクの協力を得ながら食料キット（米、豆、砂糖、食用油）をアンバール県ファルージャ市内の4地域の合計450家族に配布した。食料キットの配布に協力した団体からは配布の模様を撮影した写真のほか動画も届き、ファルージャ市当局をはじめ地元の団体4団体からは感謝状をいただいた。



■ファルージャの避難民に無事に食料が届けられた。

■白血病児への医薬品支援

イラク保健省からの供給が足りずに不足している抗がん剤などの医薬品をJIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク。JVCもメンバーとして参加）として4カ所の病院に提供している。

バレンタインデーにちなみ、イラクの子どもたちが描いた絵のパッケージのチョコレートによる資金調達キャンペーンを実施。（以上谷山）

スーダン

■車両整備を通じた難民帰還支援

「車両整備による難民帰還支援」と、元難民の若者を対象にした「整備士研修による帰還民定着支援」の二本柱の活動を南部スーダンで実施している。

1月から始まった第2期研修コースでは、昨年12月に終了した第1期よりも5名多い20名の研修生を受け入れている。大半はこの2～3年の間に難民キャンプから帰還してきた若者である。研修生増加に伴い、講義を専門に担当するスーダン人指導員を採用。研修生20人は2クラスに分かれ、それぞれ週2日間は教室で講義を受け、残り4日は整備実習に取り組んでいる。実習では、第1期コースの卒業生（6人を正規スタッフとして登用）を含めてすべての整備士が指導にあたっている。

3月4日にスーダン連邦政府大統領のアル＝バシールに対して国際刑事裁判所が逮捕状を発行した。この影響で、スーダン政府がダルフールで活動する国際NGO13団体を国外退去処分にするといった事態が進んでいる。南部スーダン自治政府は国連・NGOによる人道支援活動の継続を保証しており、JVCも通常通りの活動を進めている。（今井）



■研修生を指導する第1期卒業生のマリッシュ（中央）。

ベトナム

■農村開発

99年からホアビン省で実施してきた住民参加型農村開発事業は09年3月をもって終了した。3月10日～12日にかけて各村とタンラック郡にて終了会議を開催し、カウンターパートであるホアビン省タンラック郡人民委員会に事業を正式に引き継いだ。また、事業終了前の3月7日にはベトナムにおける90年からの活動のまとめを行なうための会合をハノイで開催し、過去に活動を共に実施していたベトナムの人々がベトナム全土から約100名集まり、近況を報告しあった。それぞれの地域で人々がJVCの活動から学んだことをさらに発展させ、深めていることを確認できた。



■3月7日に行なわれた活動のまとめの会の集合写真。

■ネットワーク

2月23日～27日にかけてフィリピン・セブ島で行なわれた第6回アジア合鴨農法シンポジウムにホアビン省ナムソン村・ディックザオ村の村人、ホアビン省農業局職員と共に参加した。参加者は日本、韓国、フィリピン、バングラデシュからの報告を聞き、小規模農家の生活改善にこの農法が役立っている点や、地方行政が積極的にこの農法を普及している事例などについて学んだ。（以上伊能）

南アフリカ

■農村開発

農村でのHIV/AIDSの予防啓発、患者や孤児へのケア、栄養改善のための菜園づくりを行なっている。1月26日から30日まで、ベンベ郡とカブリコーン郡で家庭菜園の普及に取り組んでいる在宅介護および給食センターのボランティア間の経験交流を実施した。有機農業の実践から学び合い、菜園以外の活動についても経験や課題を共有することができた。2月15日～18日に、クワズール・ナタール州で学校菜園を実施する日本のNGO、TAAAとの経験交流を実施した。3月6日には、08年度の菜園研修参加者を対象に研修修了式を開催、ボランティアや青年グループメンバーが修了証を授与された。また、劇を通して予防啓発活動を行なう青年たちへの研修を週末に実施し、シナリオ作りや演技手法を学んでいる。



■ベンベ郡への経験交流で菜園を見学する参加者。

■ネットワーク

安定した食料生産と農村地域の復興を目指し、環境保全型農業の普及を実施している。カラ地区の10村で、研修を終え実践してきた農民が、他の農民に種の自家採取、有機肥料の利用、雨水の有効利用、輪作や混作、果樹栽培などについて教えている。（以上津山、渡辺）

□ パレスチナ

■ガザ緊急支援

08年末からのイスラエルによる攻撃で大きな被害を受けたガザで、以下4つの緊急支援を実施。①現地医療NGOを通しての救急キット支援、②治療用ミルクの必要な子どもたちに対して特別ミルクを支援、③栄養失調児への支援を行なっているハンユニスの栄養センターで、子どもたちへの生鮮食料品の支援、④栄養強化牛乳、ビスケットを配布している幼稚園で、子どもたちへおもちゃを支援。

■ガザ栄養改善支援

ガザの幼稚園児約320名への栄養改善支援。西岸ヘブロン産牛乳とラマッラー産ビスケットを配布中。ハンユニスの栄養センターで栄養失調児への治療用栄養食を提供。1月中旬の停戦から、幼稚園および栄養センターは再開。

■健康教育・巡回診療支援

エルサレムの医療NGOによる保健教育・巡回診療活動をエルサレムの壁の両側の学校や幼稚園などで実施。

■収入創出支援

ベツレヘムの難民キャンプにあるハンダラ文化センター女性グループの刺繍プロジェクトを支援。平和念珠作りも継続。

■アドボカシー／平和創造・平和構築

東西エルサレムの女性たちのエンパワーメントを目指したプロジェクト支援開始。3月エルサレムでの仏教者と現地宗教者との対話の準備中。パレスチナに関わる日本のNGOが共同でガザの状況について報告会を実施した。

(以上小林、福田)



■おもちゃを手にし、笑顔を見せる子どもたち。

□ アフガニスタン

■女性と子供の健康改善のための地域保健事業

昨年8月実施したクズ・カシュコート村での健康診断・生活調査結果の分析をスタッフ間で共有し、今後取り組む病気予防の課題点を明らかにした。その後、村で健診を受けた36世帯の村人とも結果と課題点が共有され予防への関心が高まった。また、診療所のあるゴレーク地域内の小学校10校の保健担当教員19名を対象に3月14日から6日間の健康教育ワークショップを開催した。



■村人の健診結果について説明するJVCスタッフ。

■教育支援活動

小学校教科書指導書活用のための教員研修を1月20日から2月2日まで12日間、ナンガルハール県シェワ郡の全小学校31校から81名の小学校低学年教員を対象に実施した。3年目を迎えた研修に参加者から、研修継続への期待と研修後のケアの必要性について要望があがった。また、学校長に研修内容の理解を促すために2月25日から4日間のワークショップを実施した。

■政策提言・ネットワーク

現地代表が月一回開催される民軍調整会議に出席し、民軍ガイドラインに抵触するPRTの人道支援活動が拡大していくことに対する問題提起した。(以上長谷部)

□ 調査研究・政策提言

■ODA改革：援助効果向上（Aid Effectiveness）に関する「CSOアジア太平洋州地域会合」に参加

昨年9月上旬、ガーナの首都アクラで行なわれた「援助効果向上」のためのパリ宣言中間レビューに関する閣僚級会合のフォローアップとして3月9日から11日にかけてマニラで開催された会合に参加した。アクラ会合の成果文書（AAA：Accra Action Agenda）をどうやって政府に実行させていくかという課題とCSO自身の援助効果をどう進めていくかについて話し合った。この会議を受けて、これから日本でJANICやODA改革ネットワークが中心となって援助効果向上に関する議論を日本で広めていく。(高橋)

□ コリア

■絵画交流（国内巡回展）

『南北コリアと日本のともだち展』の展示作品を通して、朝鮮半島への文化理解を深める授業が福岡の小学校で行なわれた。在日コリアンの方による文化紹介のほか、ピョンヤンやソウルの子どもたちの等身大自画像やメッセージに触れることで類似点や相違点を発見することでお隣の国を身近に感じるとともに、「まだ会っていない世界の子どもたちに絵とメッセージを伝える」プログラム。この授業に参加した子どもたちからの絵画作品とメッセージが届いている。今後の絵画展や交流事業を通じて、ソウルやピョンヤンにも伝えていく予定。



■福岡県宮若市の小学生から等身大自画像がたくさん届いた。

■来年度交流事業

来年度の交流事業に関する打ち合わせをすすめている。韓国の協力団体である「オリニオッケドンム」とは、オッケドンムの諮問委員であり絵本作家の柳在守（リュウ・ジエス）氏に協力をいただき、5月に日本で子どもたちによる絵画ワークショップを開催することになった。(以上寺西)



■ 3/15 のコミュニティ・レストラン「かさまい」での報告会の様子。

三月から四月にかけての一時帰国に合わせ、雪の北海道から桜満開の九州まで、日本を縦断しての報告会ツアーを行いました。

東京での報告会と違い、地方での報告会の良さはアットホームな雰囲気です。私の話のあとはお茶とお菓子を楽しみながら、参加者がお互いに以前からの知り合いのようないまの雰囲気になって様々な議論を交わすこともしばしばです。今回も、「スーダンの子どもたちの将来の夢ってなんだろう」と「どんな遊びをしているか」そんな話で盛りあがりました。

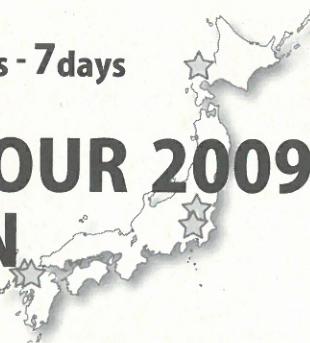
スーダンの子どもたちが遊んでいる「マンカラ」というゲームを紹介すると、児童館に勤務している方が「そのゲーム、いま日本の小学校でも大人気なんですよ」と教えてくださいました。

（スーダン現地代表今井高樹）

JVC スーダン報告会

3/13~4/3 5cities - 7days

JAPAN TOUR 2009 of SUDAN



国内ひろば

JVC network

ツアー日程

日程	場所	主催
3/13 (金)	札幌	自由学校「遊」、JVC
3/15 (日)	札幌	(友田さん)
3/22 (日)	宇都宮	宇都宮市国際交流協会
3/28 (土)	のうがた直方	日本聖公会直方キリスト教会・直方グローバルセンター
3/29 (日)	福岡	JVC 九州ネットワーク
4/2 (木)	東京	JVC
4/3 (金)	東京	JVC

今井さんの報告会を運営するのは今回で二回目になります。元々のきっかけは、三年前に大学の先輩がアフリカ（タンザニア）を旅行した時に、たまたま



■ 報告会のあとは記念撮影（後列左から2人目が友田さん）。

札幌でスーダンの話を聞く。

友田
ともだ
直之
なおゆき

報告会の会場となつた「かさまい」（札幌市厚別区）さんは、元会社員のオーナーが「地域の人びとが集まる場にしたい」とオープンされた「コミュニティ・レストラン」です。お年寄りの方たちが介護士さんと一緒にお店に集まる「おしゃべりの会」があつたり、バンド活動をよろしくお願いします。

報告会の会場となつた「かさまい」（札幌市厚別区）さんは、元会社員のオーナーが「地域の人びとが集まる場にしたい」とオープンされた「コミュニティ・レストラン」です。お年寄りの方たちが介護士さんと一緒にお店に集まる「おしゃべりの会」があつたり、バンド活動をよろしくお願いします。

していいる私自身もコンサートを開催させていただいたりと、小さなイベントがたくさん開催される場所です。

JVCが変えた私の人生

△ 東京都 △ 高橋 豊



現在、私は自然食品店の店長をしている。もし私がJVCに深く関わっていなければ、この職業を選ぶことは無かつただろう。

二〇〇三年、イラク戦争への反対集会でJVCを知つて以来、ボランティアとして様々な活動をしてきた。戦禍に苦しむ人々のために何かしたいとの想いからだが、JVCを深く知るにつれ、武力紛争の根本原因について考えるようになった。それは何か? しばしば大きな原因となるのは、石油などの天然資源の利権争いである。では、なぜ石油がそんなに重要なのか? 大量に使われる農薬もその大きな用途である。

安い農作物を求めて、農薬を大量に使用して栽培された農作物をはるか遠くの国から輸入する――。日本を含め、世界各地を覆うこのような食のあり方が、戦争を引き起こし、多くの人の命を奪っている。このことに気がづいた私は、日本の食のあり方を変える仕事がしたい、と思うようになり、今の職業を選んだ。

「農薬や化学肥料に頼らない農業による地産地消、コミュニティの中での自給自足を中心とした生活にシフトしていくことが、環境破壊、戦争、貧困といった、現代の世界が抱える大きな問題を解決するために不可欠である」JVCの多様な活動を貫く一つの理念が、これではないかと理解している。これから世界には、「この理念こそが必要だと思う。JVCスタッフ、そして会員の皆様とともに、この理念を広く伝え、自ら実践していくことで、より良い世界をつくっていけるよう、ともに歩んでいきたいと思う。

募金にご協力ありがとうございます

JVCの活動は、皆さまの募金に支えられています。JVCへの募金は税制優遇措置を受けることができます。

① JVC 募金（郵便振替）

JVCの各國での活動に役立てられます。募金先をご指定いただくこともできます。

口座番号: 00190-9-27495
加入者名: JVC 東京事務所

1月計 5,705,286 円
2月計 1,892,462 円

	1月	2月
無指定	100,158 円	181,724 円
タイ	0 円	0 円
カンボジア	348,147 円	212,950 円
ラオス	6,700 円	267,950 円
ベトナム	4,200 円	2,950 円
南アフリカ	3,000 円	0 円
パレスチナ	5,175,581 円	1,052,089 円
アフガニスタン	52,500 円	53,300 円
コリア	0 円	0 円
イラク	15,000 円	121,499 円
スーダン	0 円	0 円

② 犬養道子「みどり一本」募金

JVC活動地での環境保全活動に使われます。

口座番号: 00100-8-212497
加入者名: 犬養道子「みどり一本」

1月計 114,500 円 / 19 件
2月計 88,500 円 / 16 件

③ JVC マンスリー募金

銀行や郵便局の口座、クレジットカードから自動引き落としできる手軽な募金方法です。

1月計 1,926,350 円 / 1,570 件
2月計 1,897,050 円 / 1,569 件

編集後記

久しぶりに「編集後記」らしい後記を。昨年末、このT&Eを編集するためのPCと編集ソフトを寄贈いただいた。それまで使っていた年代モノのiBook(私物)もめでたくお役御免に。「これを機に誌面デザインのリニューアルも…」と目論んだが、案の定時間がとれず従来どおりのままに。編集/レイアウト経験のある方、どなたかお手伝いいただけないでしょうか…いや本気で。(H)

2008年冬募金にご協力ください、ありがとうございました。

カンボジアの農民、南アフリカのHIV陽性者…、皆様のご支援は多くの人の暮らしを改善する力になっています。この冬も、1200万円を超えるご支援をいただきました。ご協力に心より感謝いたします。

2008年冬募金集計(2008/11~2009/2)

1,641 件 12,760,300 円

[募金額の20%以内は管理費とさせていただきます。また、上記冬募金の金額は、ページ左上のJVC募金の欄には含まれていません。]

JVCウェブサイト会員専用ページパスワード(2009年5月~6月):

8Huy5t9RaB

JVCウェブサイトの会員専用ページでは、T&Eのバックナンバーを順次公開中です。

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

第10回 JVC会員総会のお知らせ

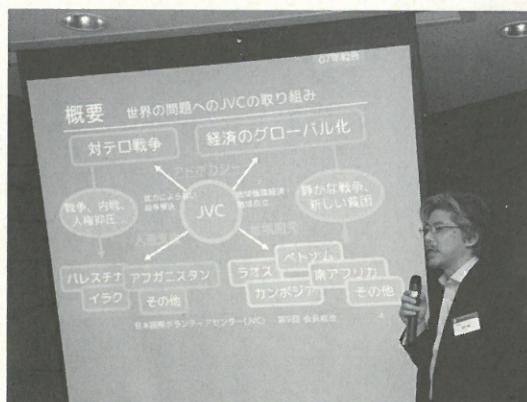
日時：2009年6月13日(土) 10:00～12:30

会場：豊島区立生活産業プラザ『ECOとしま』多目的ホール

議案：1) 2008年度活動報告および決算報告

2) 2009年度活動計画および予算案

年に1回、多くの会員の方々と一緒に集える場である会員総会を今年も実施いたします。JVCの活動を通して世界各国の課題を共に考える場もあります。ぜひご参加ください。



■活動報告に先立って、JVCの問題意識を伝える代表の谷山。昨年度の報告は本誌no.267に掲載。



■昨年の午後の交流会では、テーマ毎に分かれてディスカッションを行った。写真はNGOと企業との連携について考えるチーム。

例年と同様、総会後の午後に、交流会「JVCのつどい」を企画しておりますので、こちらもご参加ください。参加される場合には昼食をご持参ください。詳細は、6月初頭に別途お送りします議案書に同封/記載いたします。



日本国際ボランティアセンター (Japan International Volunteer Center) は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVCの活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志でJVCに参加し、活動を継続してきました。JVCはボランティアという言葉を、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

■ JVCでは会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年6回この会報誌と年次報告書をお届けします。

- ◎一般会員 10,000円
- ◎学生会員 5,000円
- ◎団体会員 30,000円

※それぞれに正会員と賛助会員があります。
入会のお申し込み、会員の方のメールマガジンのお申し込み、住所変更などは会員担当の寺西へ。

→ s-tera@ngo-jvc.net

会員数(4月2日現在) 合計 1,299名
(正会員 649名、賛助会員 650名)

■オリエンテーション(説明会)にお越しください。

JVCの活動内容をご紹介しています。お気軽にご参加ください。
(無料。予約不要です)

- ◎第1月曜日午後 7:00～8:30
 - ◎第2・第4土曜日午後 2:00～3:30
- ※会場はJVC東京事務所です。

E-mail

info@ngo-jvc.net

ウェブサイト

<http://www.ngo-jvc.net/>

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

※本誌は、日本の森の間伐材を有効利用して作られた用紙「間伐材印刷用紙」(古紙90%、間伐材バルブ10%)で作成しました。

